



# 香川県花き振興計画

## 素 案



令和8年 月

香川県農業生産流通課



## 目 次

序 章 計画の策定に当たって .....	1
1 計画策定の趣旨	
2 計画の性格と役割	
3 計画の期間	
4 計画の進行管理	
第1章 花きを巡る現状と課題 .....	3
1 産出額	
2 生産状況	
3 担い手	
4 認知度	
5 消費動向	
6 盆栽の輸出状況	
7 花きの流通状況	
第2章 基本目標と施策の推進方向 .....	13
1 基本目標	
2 施策の推進方向	
第3章 推進施策 .....	14
1 儲かる！花き生産の振興	
(1) 収益性の高い花き生産の振興	
(2) 生産・経営基盤の強化	
2 花きの需要拡大	
(1) 県産花きのブランド力の強化と販路拡大	
(2) 花き文化の振興	
(3) 全国高校生花いけバトルの推進	
(4) 盆栽の販路拡大	
3 担い手の確保・育成	
(1) 次世代の担い手の確保・育成	
第4章 施策の目標・指標 .....	21

第5章 品目別推進施策 ..... 22

- 1 キク
- 2 ヒマワリ
- 3 マーガレット
- 4 カーネーション
- 5 ラナンキュラス
- 6 鉢物
- 7 盆栽

## **序章 計画の策定に当たって**

### **1 計画策定の趣旨**

本県では、県土面積が全国で最も小さいものの、恵まれた自然条件のもと、農業者の丁寧な栽培管理や創意工夫により、全国に誇れる特色ある花きが栽培されており、生産量が全国上位に位置する品目もあります。また、本県の盆栽の歴史は古く、松盆栽の生産量は日本一となっており、海外でも需要は高まっています。

こうした中、県では、平成28年に「香川県花き産業及び花き文化の振興に関する計画」を策定するとともに、令和3年には「香川県花き振興計画」を策定し、「香川の花き産業の持続的な発展」を基本目標として、花きの生産振興と需要拡大を車輪の両軸として「ヒト（担い手）の確保、育成」「物（品種や技術）の開発」「基盤（生産・経営基盤）の強化」「認知度向上」「花き文化の振興」「全国高校生花いけバトルの推進」「輸出の促進（松盆栽）」を取り組んできました。

新型コロナウイルスの感染拡大や、国際情勢の悪化に伴う物価高騰は、花きの需要や生産に大きな影響を与えました。県では物価高騰に対する助成やセーフティネットの推進、花きの需要拡大のためのイベントの実施など、さまざまな事業に取り組んできました。

こうした取組みにより、県オリジナル品種であるラナンキュラスの「てまり」シリーズ等を中心に、栽培の拡大傾向がみられるとともに、県民の花き消費額が令和3年以降、増加傾向に転じるなど、明るい兆しも見えています。しかし依然として、農業者の高齢化等により、農業者数や栽培面積は減少しており、地球温暖化に伴う気候変動による異常気象の増加など、花きの生産環境は厳しさを増しており、花き生産・経営の持続性が危ぶまれています。

このように、花きを取り巻く環境が大きく変化する中、本県の花き産業が将来にわたり持続的に発展していくために、これまでの取組みの成果や課題、国の「花き産業及び花き文化の振興に関する基本方針」等を踏まえ、本県の花き振興の指針として、新たな花き振興計画を策定します。

### **2 計画の性格と役割**

本計画は、本県における花き振興の指針として、県の「総合計画」や新たな「香川県農業・農村基本計画」（検討中）に即し、花き振興の方向性や推進施策を明らかにするものであり、次のような役割を持ちます。

- (1) 本県における花きの振興について、本県の実情に即した振興方向と目標を明らかにすることにより、その実現に向けた施策を総合的かつ効率的に推進するものです。
- (2) 基本目標や推進施策等について、農業者、市町、農業協同組合、市場、花き商業協同組合、消費者等と共有し、連携・協力しながら、本県花きの振興に取り組む

ものです。

- (3) 本計画は、花きの振興に関する法律の第4条に規定する振興計画に位置づけられるものです。

### **3 計画の期間**

令和8年度から令和12年度（目標年度）までの5か年計画とします。

### **4 計画の進行管理**

本計画の進行管理は、花と緑の普及啓発や花きの消費拡大・生産振興及び流通の効率化並びに花き文化の振興に資することを目的に設置された花の里かがわ推進委員会において実施します。

# 第1章 花きを巡る現状と課題

## 1 産出額

本県における花きの出荷額は長らく漸減傾向にあり、令和2年には26億円でしたが、新型コロナウイルス感染拡大後の需要の変化により、令和4年に増加に転じたものの、その後再び漸減傾向となっています。品目別では、ラナンキュラスやカーネーションで大きく伸び、その後も出荷額を維持しています。

単価については、長く低下傾向にあったものの、令和2年以降は全国的な生産量の低下による需給バランスの崩れもあり、現在上昇傾向にありますが、消費者ニーズに応じた生産振興による収益性の向上が求められています。

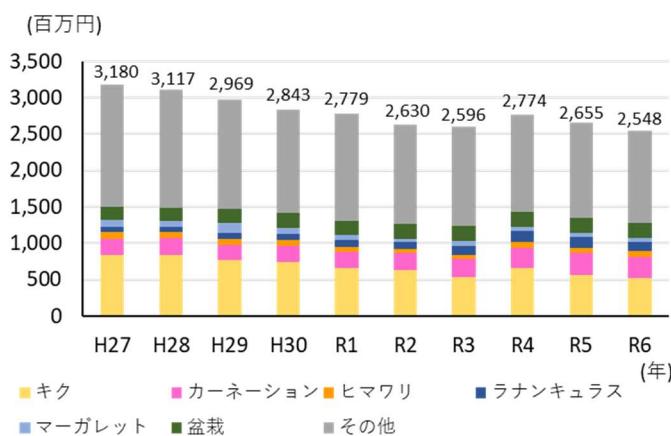


図1 県産花きの出荷額

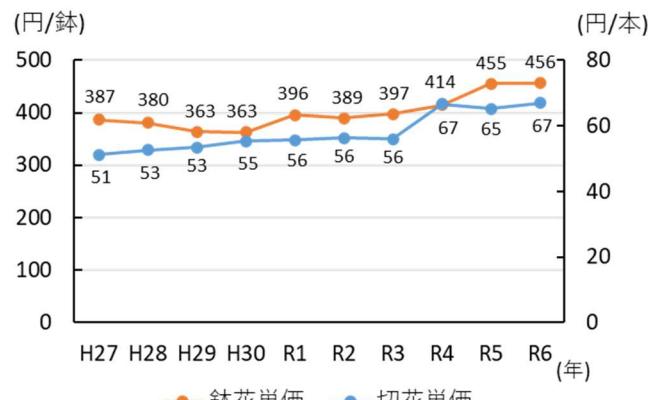


図2 香川県産花きの単価

表1 県オリジナル品種を含む品目の出荷額

	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
カーネーション	223,444	231,388	239,414	246,993	277,979	304,813	290,930
ラナンキュラス	64,371	99,098	94,757	123,691	141,259	143,655	126,961
合計	287,815	330,486	334,171	370,684	419,238	448,468	417,891

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図1、2、表1)

## 2 生産状況

全体的に花きの栽培面積は減少していますが、特に最も生産の多いキクの減少が大きく、県オリジナル品種を中心にラナンキュラスは増加傾向にあります。

温暖な気候を活かした施設栽培が盛んに行われており、秋冬季の加温栽培による出荷が中心となっています。ここ数年は夏季の異常高温による定植の遅れや開花遅延、花弁の異常等の障害が多く発生しており、出荷量や品質に影響を及ぼしているため、収穫量の向上とともに、生産費の低減が求められています。また、高品質な花き生産には、現在の施設の更新を進め、環境制御装置等の導入により、高度化を図る必要があります。

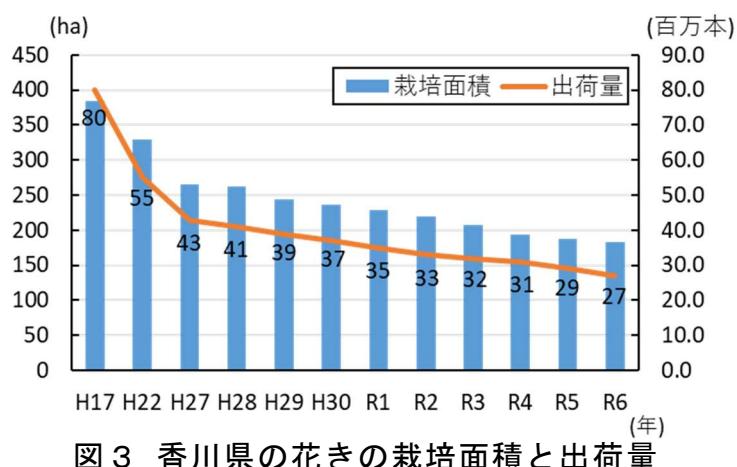


図3 香川県の花きの栽培面積と出荷量

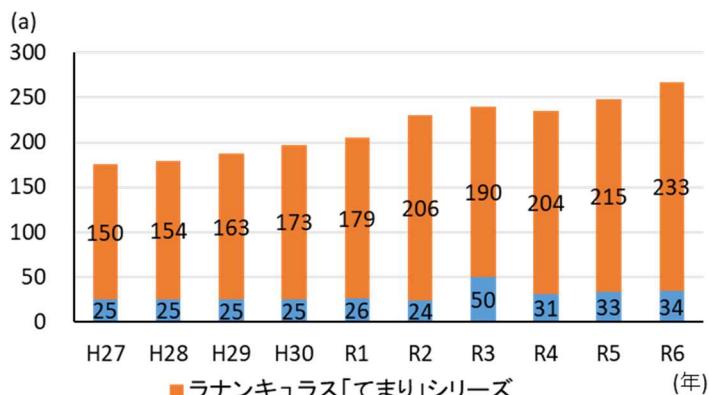


図4 県オリジナル品種の栽培面積

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図3、4)

### 3 担い手

花きの生産者数は年々減少しており、令和5年の花き生産農家戸数は540戸となつております、切花、鉢花ともに減少しています。

全国と比較すると経営規模は小さくなっていますが、施設栽培、露地栽培ともに0.5ha未満の経営体が80%以上を占めています。法人経営体、団体経営体の比率は、施設栽培については、全国平均を上回っていますが、そのほとんどは個別経営体です。

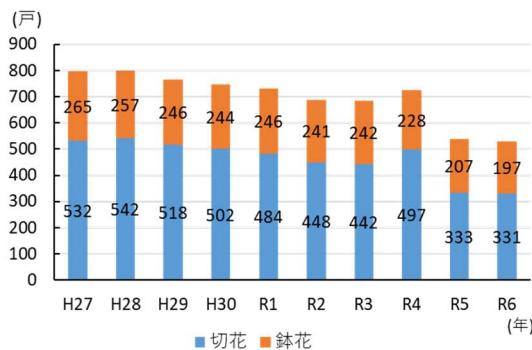


図5 香川県花き農家戸数

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」

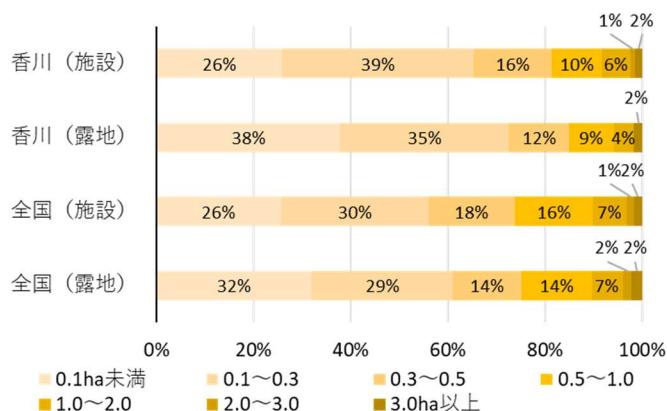


図6 全国と香川の栽培面積別花き経営体割合

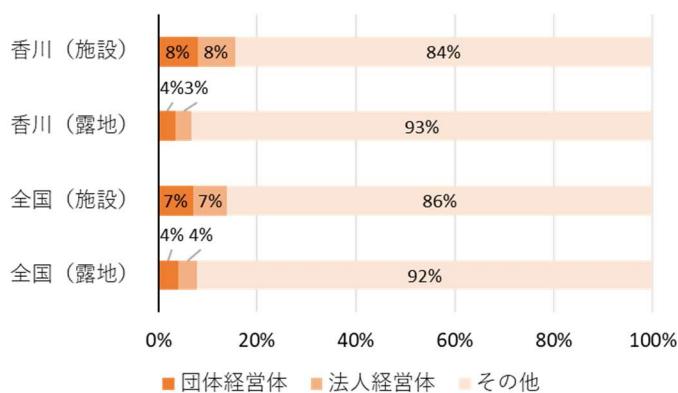


図7 花き経営体のうち、団体経営体、法人経営体の割合

資料：2020年農業センサス（図6、7）

販売金額別にみると、全国に比べ零細な経営体が多くなっており、生産者の減少と高齢化が進む中、先進的な農業経営者が有する優れた技術や経営ノウハウを若手生産者や後継者に伝承し、次世代の担い手の確保・育成に繋げていく必要があります。

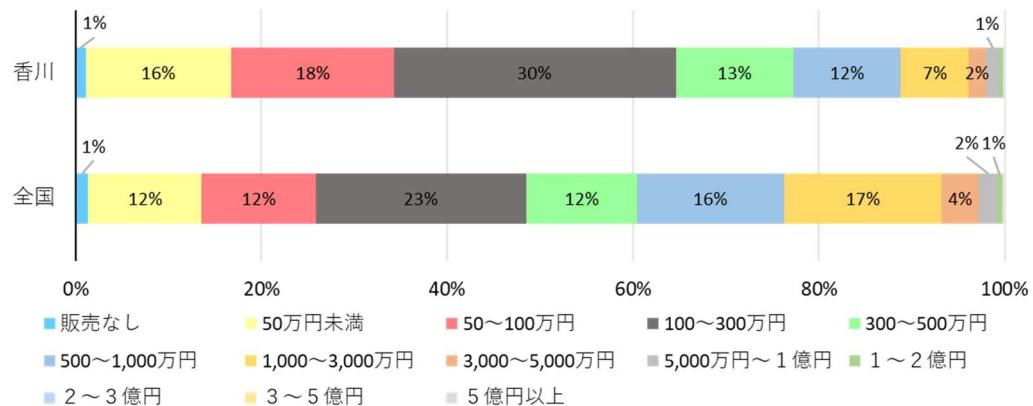


図8 販売金額別花き経営体割合

資料：2020年農業センサス

## 4 認知度

県産花きの認知度を、県民に対して調査（令和6年度県政モニター）したところ、香川県で生産されていることを知っているかとの問い合わせに対して、ヒマワリは47.9%、マーガレットは46.7%、キクは46.1%が「知っている」と回答しており、約半数程度の人がこれらの品目を県産花きとして認知していました。

県オリジナル品種であるカーネーションの「ミニティアラ」シリーズ及びラナンキュラスの「てまり」シリーズについては、「ミニティアラ」シリーズで21.2%、「てまり」シリーズで22.6%の人が「知っている」と回答していますが、約2割程度の認知度にとどまっています。また、「さぬき讃フラワー」の認知度は12%となっており、県産花きの消費喚起のためには、「さぬき讃フラワー」自体の認知度向上が必要です。

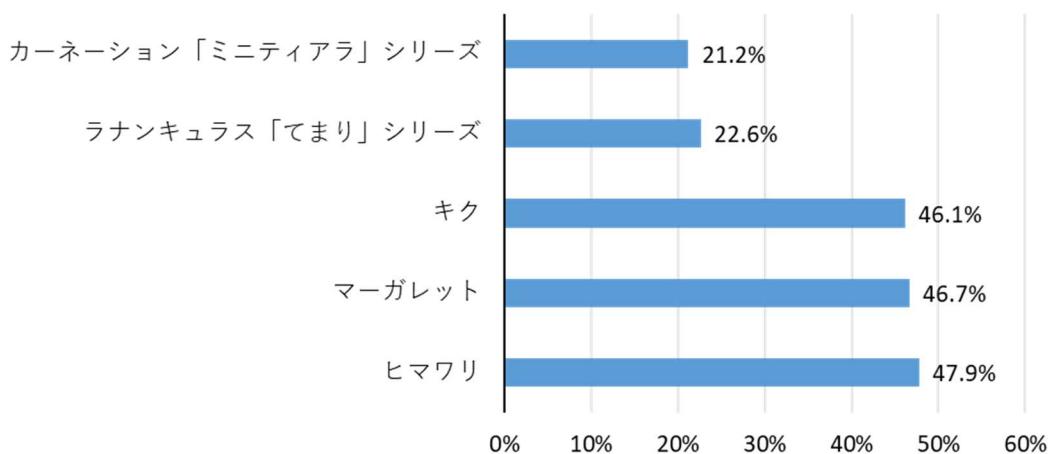


図9 「香川県で生産されている花き」の県民の認知度

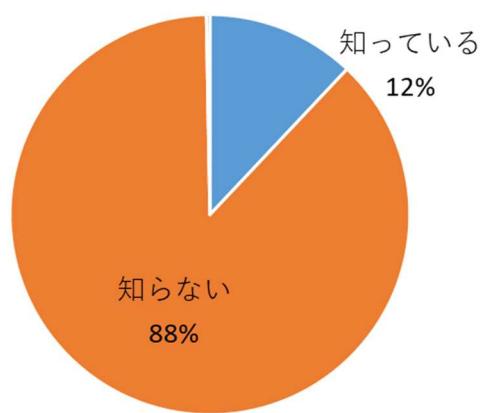


図10 「さぬき讃フラワー」の県民の認知度

資料：令和6年度県政モニター 香川県（図9、10）

## 5 消費動向

本県では、人口減少社会の到来により市場が縮小する中、花きの世帯当たりの年間支出金額及び購入頻度は、新型コロナウイルス感染拡大時に家庭需要が増加したのを契機に一時期増加しましたが、現在は感染拡大前の水準にもどっています。

年齢階層別に見ると、29歳以下では購入金額は増加しており、徐々に若い世代への花き需要が定着しつつあることが伺えますが、依然として仏花用の購入が多いシニア世代に花きの消費が支えられている構造となっており、若い世代への消費喚起が求められています。

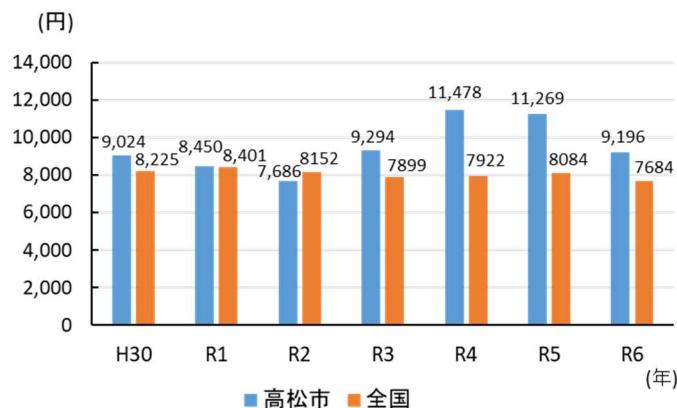


図 11 花きの世帯当たり年間購入金額

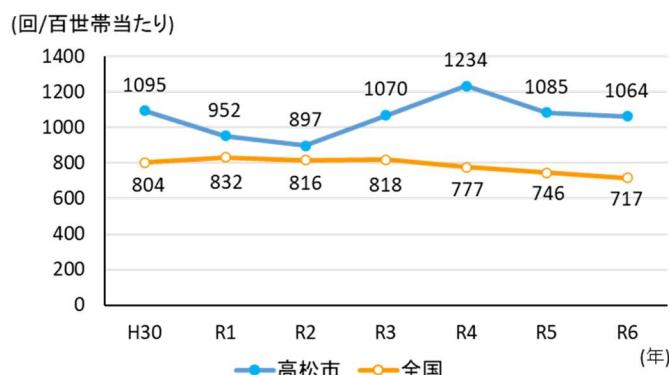


図 12 花きの 100 世帯当たり年間購入頻度

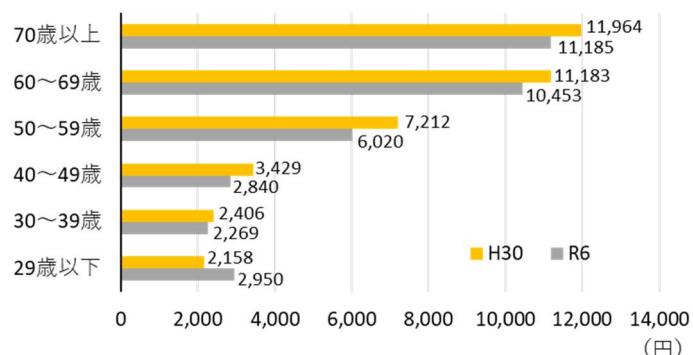
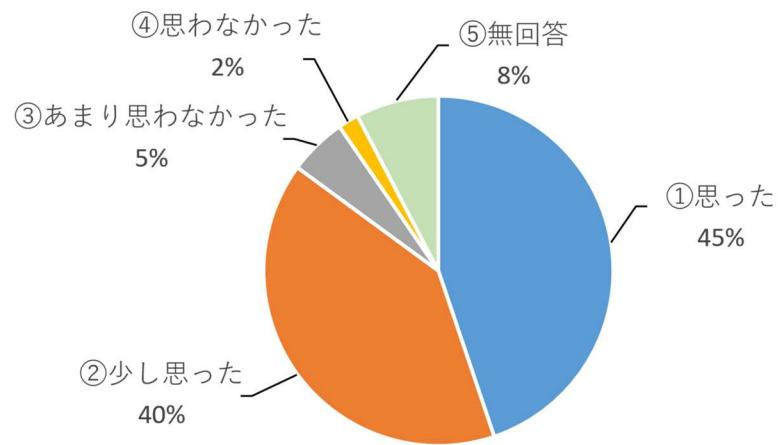


図 13 花きの世帯当たり年代別年間購入金額（全国）

資料：総務省「家計調査」 2人以上世帯（図 11、12、13）

全国高校生花いけバトルでの来場者へのイベント観覧後の花きの購入意向に関するアンケート調査では、購入しようと思った・少し思った方が 85%となっています。花きの消費拡大のためには、引き続き、花いけバトルを通じた県産花きのPRと若い世代の需要創出に取り組む必要があります。



「今回のイベントで今以上に家庭に花を購入したいと思いましたか」

図 14 花いけバトル全国大会観覧後の花きの購入意向

資料：全国高校生花いけバトル全国大会来場者へのアンケート調査結果（R6 回答者 261 名）

## 6 盆栽の輸出状況

盆栽では、国内需要の低迷や担い手不足、苗木の不足等が懸念され、令和2年に黒松が輸出解禁となったEUの輸出量が一時期伸びたものの、主要な輸出先であった台湾が大きく減少するなど、盆栽の輸出量全体も減少しつつあります。

一方、輸出単価は上昇傾向にありますが、さらなる輸出拡大には生産量の確保・拡大が必要です。また、輸出先の検疫条件に即した生産環境の整備や病害虫対策の確立・普及が必要です。

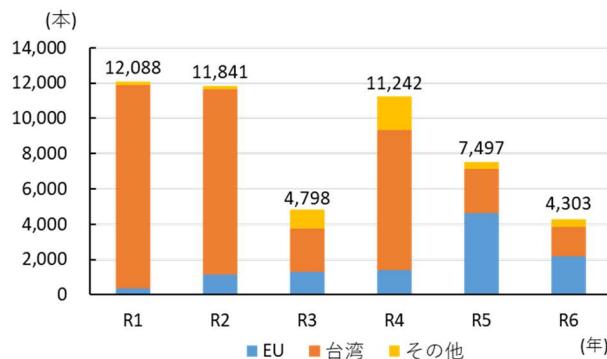


図 15 盆栽の輸出量

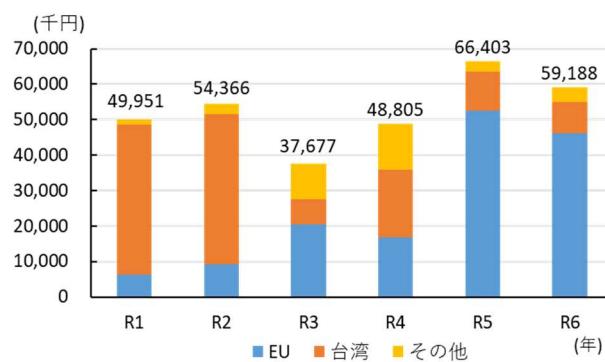


図 16 盆栽の輸出額

資料：財務省「貿易統計」神戸税関管内（図 15、16）

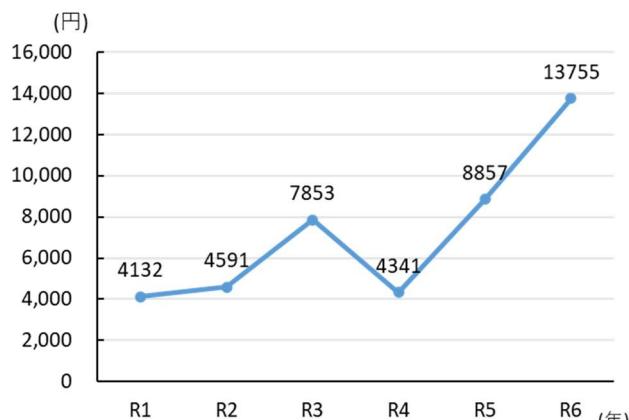


図 17 盆栽の輸出単価

資料：財務省「貿易統計」神戸税関管内の数値から算出

## 7 花きの流通状況

県産花きの出荷地域（令和6年）は、切花類では関東への出荷が15%、近畿への出荷が46%、県内への出荷が31%となっており、令和2年と比較すると、関東及び近畿への出荷が増加し、県内への出荷割合が低下しています。鉢物類では、関東への出荷が5%、近畿への出荷が56%、香川県内への出荷が11%となっており、こちらは県内への出荷割合が低下するとともに、近畿への出荷割合が増加しています。

品目別にみると、キクの出荷先別割合は、県内が49%、近畿が47%を占めています。カーネーションの出荷先割合は、近畿が48%、関東が39%、県内が13%となっており、県内への出荷割合が減少しています。マーガレットの出荷先割合は、近畿が69%、関東が21%となっており、県内への出荷量は5%と低くなっています。ラナンキュラスの出荷先別割合は、関東が40%、近畿が35%、一部北海道へも出荷されており、県内への出荷割合は6%と低くなっています。盆栽は関東へ32%、近畿へ20%出荷されており、全国へ出荷されています。

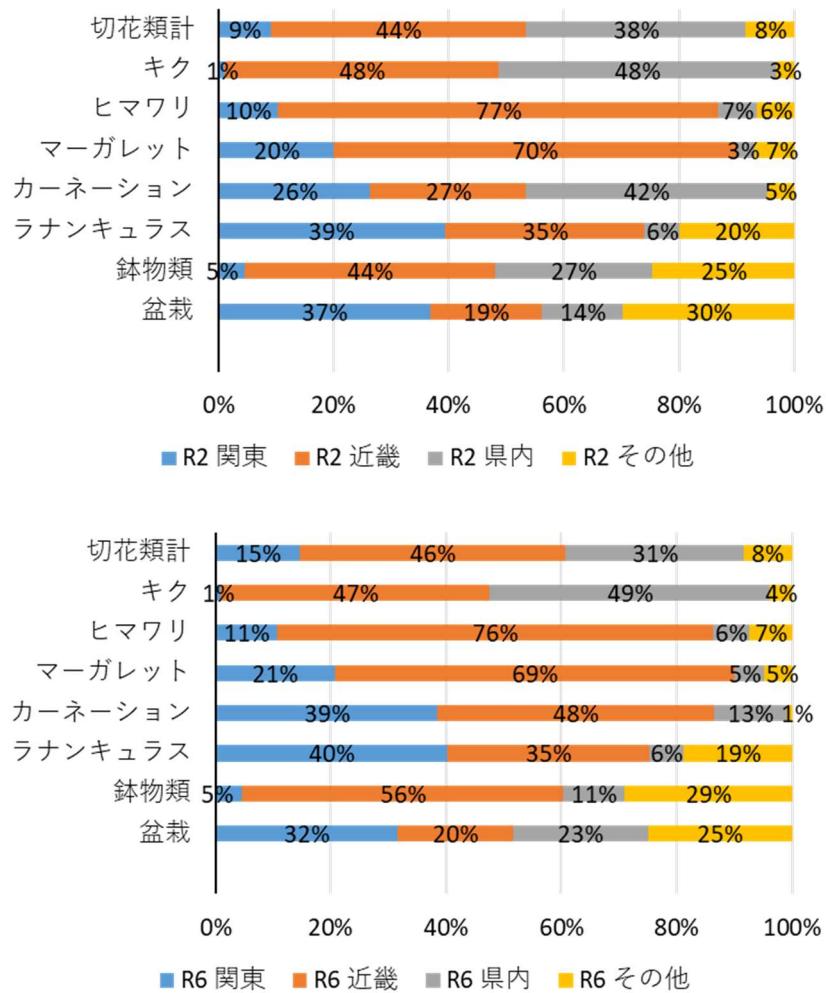


図 18 本県主要花きの出荷地域別割合

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」

「物流 2024 年問題」によるドライバー不足や、燃料費の高騰等により、物流運賃は上昇しているとともに、関東や近畿圏等の主要な出荷先への輸送手段の確保が難しい状況となっています。農林水産省を中心に「花き流通標準化ガイドライン」を制定し、台車や各伝票の標準化を進めていますが、市場ごとの荷受けシステムや产地ごとの規格の違い等により困難な状況であり、物流の効率化が求められています。

花きの流通については、以前から市場間の転送が行われており、一旦関東や関西の主要市場を中継して地方へ送られるといった構図も見られ、効率的な輸送を妨げる要因のひとつとなっています。

また、生産者の収益性の向上が求められる一方で、香川の花き文化の継承のためには、県民に高品質な県産花きを気軽に手にとってもらえる環境づくりが必要です。

切花の輸入量は、平成 24 年をピークに減少していましたが、令和 3 年から増加傾向となっています。輸入額については年々増加しており、令和 6 年は過去最高額となっています。輸入花きにシェアを奪われないためにも、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすことが重要です。



図 19 切花の輸入量及び輸入額の推移

資料：財務省「貿易統計」

## 第2章 基本目標と施策の推進方向

### 1 基本目標

#### 「かがわの花き産業の未来に向けた持続的な発展」

本県の花き産業を取り巻く状況は、県オリジナル品種の栽培の拡大傾向が見られるとともに、花きの消費額が増加に転じるなど、明るい兆しが見える一方、農業者の減少、地球温暖化に伴う異常気象による栽培環境の悪化など、花きの生産環境は厳しさを増しており、花きの生産・経営の持続性が求められています。

このように、本県の花き産業を取り巻く環境が大きく変化する中、本県の花き産業が将来にわたり持続的に発展していくために、「かがわの花き産業の未来に向けた持続的な発展」を基本目標とします。

### 2 施策の推進方向

#### ◇儲かる！花き生産の振興

消費者ニーズに応じた品目・品種の探索、高温対策・省エネ対策技術等の導入推進による収益性の高い花き生産の推進、機械・施設の整備支援や物流の効率化、輸出等で問題となる病害虫の防除技術の確立・普及による生産・経営基盤の強化を図ります。

#### ◇花きの需要拡大

「さぬき讃フラワー」の認知度向上と、フラワーフェスティバルの開催やSNSでの情報発信による県産花きのブランド力の強化と販路拡大、若い世代の需要創出と県産花きのブランド力強化のための全国高校生花いけバトルの推進、花飾りや花贈り、全年齢を対象とする花育の推進による花き文化の振興、輸出産地としての取組支援による盆栽の販路拡大を図ります。

#### ◇担い手の確保・育成

農業大学校や先進農家等での新規就農者の養成、経営マインドの優れた担い手の育成による次世代の担い手の確保・育成を図ります。

## 第3章 推進施策

### 1 儲かる！花き生産の振興

#### (1) 収益性の高い花き生産の推進

- ◇オリジナル品種の育成や消費者ニーズに応じた品目・品種の探索
  - ・消費者ニーズ等を踏まえた魅力あるオリジナル品種の育種及び導入を推進するとともに、栽培技術のマニュアル化による品質・収量の高位平準化及び生産拡大に努めます。
  - ・高温又は低温耐性等の気候変動への適応性、病害虫抵抗性、日持ち性、生産の軽労化といった特性を有する新品目や新品種、複合経営での夏作品目等の探索と導入を進めます。
  - ・県オリジナル品種の優良種苗を安定供給するための園芸総合センターを中心とする体制づくりに努めます。

#### ◇高温対策・省エネ対策技術等の導入推進、スマート農業の推進

- ・遮光・遮熱資材や細霧冷房等による暑熱対策や、変温管理や補光等による高品質・安定生産技術、防除作業の自動化及び作業の省力化のための栽培法等のだれもが活用しやすい省力・低コスト化技術の推進を図ります。
- ・化学農薬のみに依存しないIPM等の環境負荷低減に向けた技術等の開発・実証などに取り組みます。
- ・花きの生産性及び品質の維持と土壤負荷低減を両立するため、定期的な土壤診断による適正な施肥法の導入推進を図ります。
- ・品質・収量を高位平準化し、栽培管理を軽減するための統合環境制御システムや、より高度なデータ駆動型農業を実現するための環境モニタリング装置等の導入を進めるとともに、産地での情報の共有・分析による計画的出荷の実現を図ります。
- ・これら農業試験場で開発された新品種・新技術については、農業改良普及センターを中心に、産地・地域への迅速な普及定着を図ります。



オリジナル品種の育成



ヒートポンプの導入

## (2) 生産・経営基盤の強化

### ◇栽培施設や機械・設備等の整備支援

- ・経営安定を早期に図るため、新規就農者や規模拡大の意向を後押しし、栽培施設や集出荷場施設等の整備を支援します。
- ・実需者ニーズに応えるための高品質化や、産地の生産力・競争力を高めるための供給力の向上、経営の安定を図るための低コスト化・省力化、環境負荷の低減、県オリジナル品種の生産拡大等につながる機械や設備の導入を支援します。

### ◇物流の効率化やセーフティネット加入の推進

- ・流通に要する荷役作業・荷待ち時間の短縮を図るために、手積みからパレット輸送への切り替え、台車の導入、資材規格の統一等、省力・低コスト化に向けた取組みに対し支援を行います。
- ・共同輸送と組み合わせた流通拠点の構築等のコールドチェーンを確立しながら流通の合理化を推進する取組みを支援します。
- ・受発注情報等の流通情報のデジタル化と併せた通信環境の整備、流通情報システム間のデータ互換性の確保等の環境整備の取組を推進します。
- ・農業経営を安定させるため、関係機関と連携して、収入保険制度や農業共済など、不測の事態に備えるセーフティネットへの加入推進を進めます。

### ◇問題となる病害虫の防除技術の確立・普及

#### <花き>

- ・防除薬剤の効率的な使用法の検討や土壤消毒、耐病性品種の導入等による病害虫対策を進め、花きの生産性及び品質の向上を促進します。

#### <盆栽>

- ・検疫条件に対応した病害虫防除技術及び輸出時の輸送技術の確立を図るとともに、現場への普及に努めます。



栽培施設の整備



環境制御装置の整備

## 2 花きの需要拡大

### (1) 県産花きのブランド力の強化と販路拡大

◇「さぬき讃フラワー」の認知度向上のためのPR

- ・「香川県産花き取扱協力店」や県内量販店での農産物フェアを通じ、農業者団体、花市場、関係機関等が協働しながら県産花きのロゴマーク「さぬき讃フラワー」の認知度を向上させ、県産花きのPR活動を推進します。
- ・豊富なカラーバリエーションを持つ県オリジナル品種のラナンキュラス「てまり」シリーズやカーネーション「ミニティアラ」シリーズなどを中心に、消費者へ重点的にPRを行い、販売強化を図るとともに、香川県産花きを積極的に取り扱う「香川県産花き取扱協力店」を認証し、県産花きの消費拡大を推進します。
- ・公共施設や商店街等における花きの展示やワークショップの開催等を通じ、県産花きの活用を促進します。
- ・園芸総合センターは、令和6年度に「花と緑に触れ合う、憩い・学びのさぬきフラワーガーデン」として一部施設の改修や展示内容の刷新などのリニューアルをしたところであり、県オリジナル品種を中心とした主要な花きの展示や、県民への花に関する研究成果を紹介することで、県産花きに対する認知度向上や消費拡大を図ります。

◇フラワーフェスティバル等の開催やSNS等を活用した情報発信

- ・農業者団体、花市場、関係機関等と連携し、フラワーフェスティバル等のイベントを開催し、県産花きの消費拡大に努めます。
- ・SNSなど様々な情報発信ツールを利用することによる効果的なプロモーションを行うとともに、ホームユース需要を喚起するため、インターネットでの販売や定期配送（サブスクリプション）サービスなど、新しいチャネルを用いた販売活動の取組みを推進し、新しい生活様式に対応した需要の掘起しを行います。



公共施設等での県産花きの展示



フラワーフェスティバルかがわの開催

## (2) 花き文化の振興

◇各種イベントにおける花贈り・花飾りの推進、全年齢を対象とした花育の推進

- ・PRイベントやSNSによる情報発信などを通じ、「フラワーバレンタイン」など新しい物日における花贈り・花飾り習慣の定着を推進します。
- ・生産者と連携し、地域の学校や保育所・こども園等に加え、各年代に応じた体系的な花育活動を実施し、花への親しみを醸成するとともに、花き産業への理解を深めます。
- ・フラワーフェスティバル等のイベントにおいて、家庭での花飾りに関するワークショップ等を実施し、様々な世代での日常生活での花飾り習慣の定着を図ります。

◇生け花など伝統的な花き文化の継承

- ・生け花やお供え花、キクづくりなどの趣味園芸等、我が国の伝統的な花き文化の継承を促します。
- ・生け花や盆栽など、花きに関する豊かな伝統と文化の継承に努めるとともに、産直等の県民が気軽に高品質な県産花き入手できる環境づくりを促進し、家庭での花いけの普及・推進を図ります。
- ・さぬきフラワーガーデンにおいて、関係団体と連携して実施する園芸教室や、キッズラボを開催することにより、幅広い層への花育を進めます。



県産花きを使ったワークショップ  
の実施



さぬきフラワーガーデン

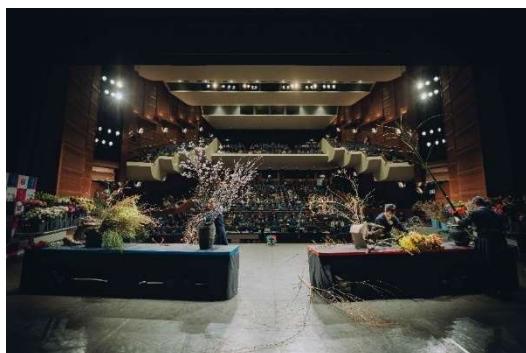
### (3) 全国高校生花いけバトルの推進

#### ◇大会開催による若い世代の需要創出

- ・花きの消費が少ない若年層を中心に、「全国高校生花いけバトル」を起爆剤として、花きへの関心を高め、新たな需要を創出することで、花き産業の振興を図ります。
- ・SNSや動画配信サービスなどの情報発信ツールを活用することで、幅広い世代に対し、花いけバトルを知るきっかけ作りを行います。

#### ◇大会を通じた県産花きのブランド力の強化

- ・「全国高校生花いけバトル」における花材としての使用や、会場での展示・販売、生産者による紹介などを通して出場生徒や観客に対し、県産花きに関する認知度向上を目指し、PR活動を行います。



第八回全国高校生花いけバトル全国大会  
(高松市)



会場での県産花きの展示

#### (4) 盆栽の販路拡大

- ◇「高松盆栽の郷」を核とした国内外への情報発信
  - ・個々の盆栽園から集まった多種多様な盆栽の直売や、オンラインストアでの全国に向けた販売、小学生向けイベントの開催等を通じた、盆栽の魅力発信の取組みを支援します。
- ◇輸出・苗木養成セミナーの開催
  - ・令和4年度から本格出荷が始まったEU諸国向けの黒松盆栽をはじめ、輸出向け盆栽の栽培方法や、輸出に向けた手続きについて、生産者及び関係者に研修を実施します。
- ◇JETRO等との連携による海外販路の開拓・拡大
  - ・JETRO等との連携により、海外販路の拡大に向けた市場・消費実態に関する情報の収集・提供及び海外からのバイヤーの招へい等による商談の機会の創出に努めます。
  - ・令和9年に神奈川県横浜市で開催される「2027年国際園芸博覧会」の機会を活用し、香川県盆栽生産振興協議会と連携しながら「盆栽」の魅力を国内外にPRします。
- ◇フラッグシップ輸出産地としての取組支援
  - ・産地からの要望が強い、米国への黒松盆栽の輸出解禁に向け、国への後押しを受けながら、関係機関と協力して必要とされる学術データの提供等輸出規制緩和に向けた取組みを進めます。



網室で管理される輸出用盆栽



研修会の様子

### 3 担い手の確保・育成

#### (1) 次世代の担い手の確保・育成

◇新規就農者の確保・育成（農業大学校・先進農家等での養成）

- ・農業大学校において、関係機関と連携して、就農に必要な技術・農地・資金等の相談ができる体制を確立するとともに、就農後を見据えた実践的な栽培実習や現地研修により、早期に経営を確立できる人材を育成します。
- ・お試し就農制度によるトライアル環境の充実を図り、就農希望者と先進農家等とのマッチングを支援するほか、就農希望者が円滑に就農し、早期に経営安定が図られるよう、経験豊富な新規就農者の里親のもとで、栽培から経営まで総合的な支援が実施できるサポート体制を強化します。

◇経営マインドの優れた担い手の養成

- ・法人化と経営の効率化を促進するため、必要とされる労務・経営管理知識やA I活用法の研修や個別相談等を行い、経営マネジメント能力を高めます。
- ・経営改善に意欲的な担い手に対し、農業改良普及センターによる支援を重点的に実施するとともに、農業試験場で開発した新品種や新技術導入のための栽培技術指導や国等の研究機関の研究情報などの提供を行います。
- ・収益性や生産性などの改善のための花きセミナーを開催するとともに、講習会や個別指導等により、経営改善計画の達成に向けて、幅広く担い手として育成・支援します。



新規就農者の里親



花きセミナーの開催

## 第4章 施策の目標・指標

---

### 【主要花き生産額】

現状：25 億円（令和 6 年）→ 目標：30 億円（令和 12 年）

### 【県オリジナル品種を含む品目の出荷額】

カーネーション「ミニティアラ」シリーズ、ラナンキュラス「てまり」シリーズ等

現状：4.2 億円（令和 6 年）→ 目標：5.4 億円（令和 12 年）

### 【盆栽の輸出額（貿易統計 神戸税関管内）】

現状：5,900 万円（令和 6 年）→ 目標：7,200 万円（令和 12 年）

## 第5章 品目別推進施策

### 1 キク

#### 【現状と課題】

##### (現状)

- 令和6年の栽培面積は29ha、出荷数量は8,909千本となっています。県内の花き生産の中で、栽培面積、出荷数量ともに最も多く、中でも輪ギクが最も多く作られています。
- 栽培面積は徐々に減少傾向をたどり、特に近年減少率が大きくなっています。
- 栽培面積のうち、施設化率は72%で、輪ギクでは92%が施設栽培です。後継者のいる農家では新たな設備投資が行われており、近年の燃油高騰に対して、高保温性被覆資材やヒートポンプなども導入も進んでいます。環境モニタリングシステムの導入も一部で進んでいます。
- 葬儀需要への依存から脱却するため、ホームユース向けに対応した短径・脱葉処理での出荷や、アレンジメントに等にも使える新しい花色・花形の品種の導入も行われています。

##### (課題)

- 夏期の高温により、開花期の遅れや品質の低下が問題となっています。
- 冬季の需要期出荷のために加温が必要な品目であることから、燃料費高騰の影響を大きく受け、経営を圧迫しています。
- ライフスタイルの変化により、これまで主体であった葬儀需要が減少しており、ホームユースや贈答などこれまでと異なる使い方を提案していく必要があります。
- 生産者の高齢化等により、生産基盤の脆弱化が懸念されているほか、輸送体系がひっ迫する中で、市場への集出荷や輸送体系の効率化が求められています。

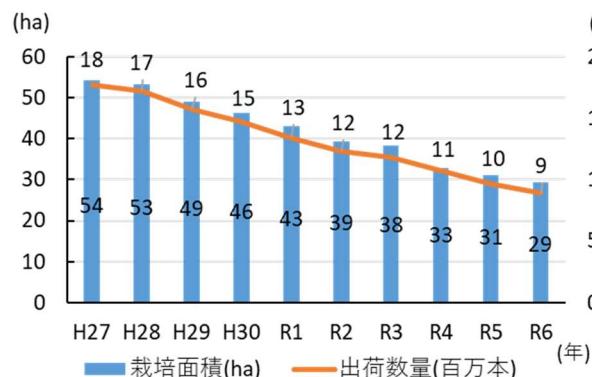


図20 キクの栽培面積と出荷量の推移

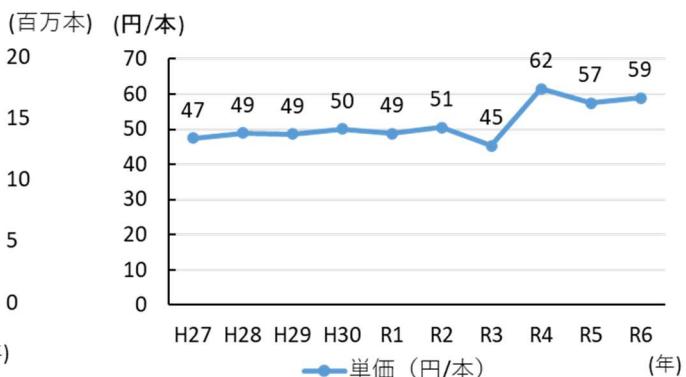


図21 キクの平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図20、21)

#### 【対策】

##### (生産対策)

- 高温に強い品種の導入や暑熱対策を推進します。
- 施設セーフティネットへの加入の促進や、省エネ対策を推進します。
- ホームユース需要に対応した規格の導入を促進します。
- ICT技術を活用した環境モニタリングや統合環境制御システムの導入による安定出荷や高品質化を推進するとともに、施設の整備を支援します。
- 担い手へ重点的に支援することによる経営規模の拡大を支援します。

##### (流通・販売対策)

- 葬儀需要に代わる新たな需要の創出及び消費者への情報発信を図ります。

## 2 ヒマワリ

### 【現状と課題】

#### (現状)

- 令和6年の栽培面積は7.4ha、出荷数量は1,555千本となっています。令和5年の出荷数量は全国3位となっています。
- 平成16年頃から、切花専用の品種が充実し、かつ需要の伸びとも相まって、栽培面積、出荷数量、出荷額ともに増加した品目です。令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して作付けの見合わせがみられたことにより栽培面積、出荷量が減少しました。
- 栽培面積のうち、施設化率は約40%で、露地と組み合わせた作型を行っています。
- ほぼ通年出荷されており、出荷最盛期は5~6月で、「父の日」の花材として定着しつつあります。
- 集出荷体制に関しては、ほとんどが生産部会による共同出荷であり、一部で持ち込み共選も行われています。
- オレンジ系、レモン系など20種以上の品種が栽培されており、実需者ニーズに適応した品種の選定が行われています。

#### (課題)

- 病害等により、生産性の低下がみられており、対策が急務となっています。
- ライフスタイルの変化による新たな需要に対応する栽培方式や規格が必要となっています。
- 露地でも栽培可能な品目であり、単価の年次変動が大きい中、契約取引の増加や市場シェアの確保が必要です。

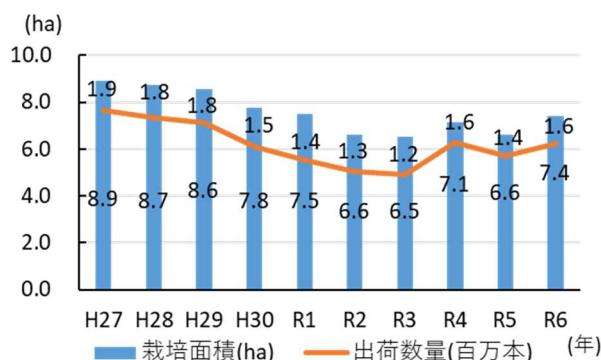


図22 ヒマワリの栽培面積と出荷量の推移

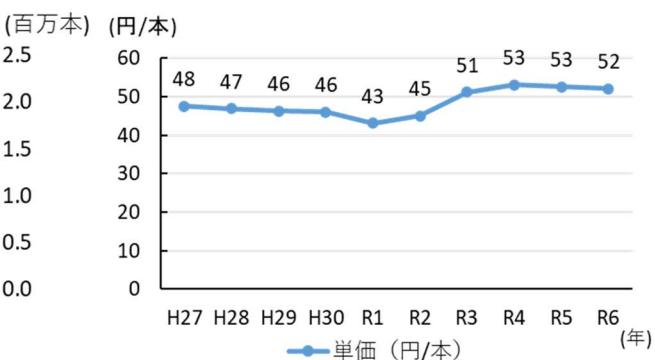


図23 ヒマワリの平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」（図22、23）

### 【対策】

#### (生産対策)

- 薬剤散布や耐病性品種の導入等の病害虫対策を進め、安定生産を図ります。
- ホームユース需要に対応した栽培方式や規格を検討します。
- 実需者ニーズを踏まえた計画的な栽培を行うとともに出荷予定日、予定本数を把握し、市場に的確に情報を伝えることにより、産地の地位を確立します。

#### (流通・販売対策)

- 6月の「父の日」の花材としてさらなる定着を図るとともに、新たな需要を創造するため、SNS等を活用した消費拡大PRを行います。
- 市場・小売等と連携し、情報の交換を密にして信頼される生産出荷体制を確立し、契約取引の割合を高めることにより安定した販売単価の維持を推進します。

### 3 マーガレット

#### 【現状と課題】

##### (現状)

- 令和6年の栽培面積は2.2ha、出荷数量は914千本となっています。令和5年の出荷数量は全国1位となっています。
- 栽培面積は温暖化による露地作型の品質低下、高齢化や市場単価の低迷により徐々に減少しています。
- 出荷量については穏やかな減少となっています。また、隔離ベッド栽培、高機能遮光資材、多段サーモなどの導入による施設の高度化により、品質の向上が図られ、高い市場評価を得ています。
- 殆どが生産部会による共同出荷が行われています。

##### (課題)

- 定植時の高温により開花期の遅延が見られ、生産性の低下が問題になっています。
- 土壌性病害による反収の低下について、対策が必要となっています。
- 系統分離による形質や開花期のばらつきが課題となっており、改善が求められています。
- 新たな需要の喚起と、それに応じた出荷形態が求められています。

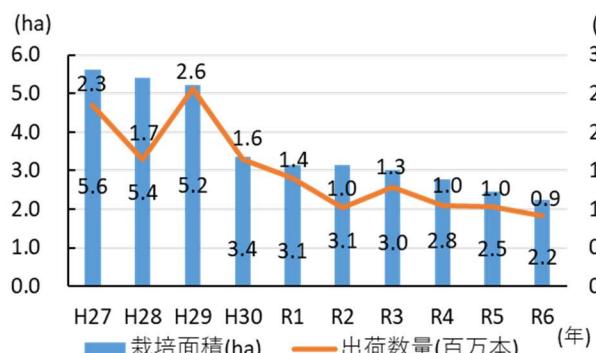


図24 マーガレットの栽培面積と出荷量の推移

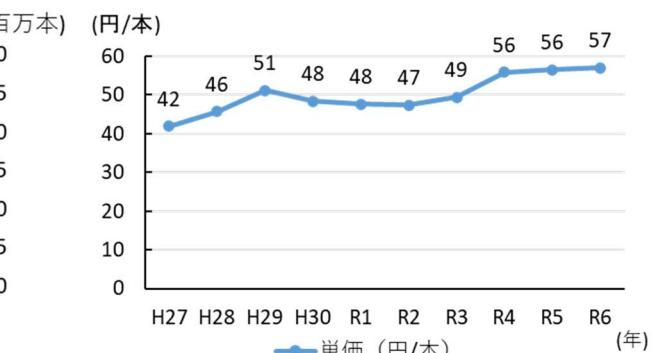


図25 マーガレットの平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図24、25)

#### 【対策】

##### (生産対策)

- 全国トップ産地を維持するための高品質・安定切花生産体制を推進します。
- 気候変動の影響を低減させるため、暑熱対策技術の確立をめざします。
- 系統選抜とその優良種苗の供給により、形質及び開花期の安定化と生産性の向上を図ります。
- 年内出荷作型の安定生産のため、施設の高度化を図ります。
- 台風などの強風に耐える耐候性ハウスの導入を推進します。

##### (流通・販売対策)

- SNS等を活用し、バレンタイン等の花贈り活動を推進します。
- 新たな需要の掘起こしのため、白以外の花色の出荷に取り組みます。
- 日持ち性の向上のための鮮度保持技術や、実需者ニーズを踏まえた出荷形態の検討を行います。

## 4 カーネーション

### 【現状と課題】

#### (現状)

- 令和6年の栽培面積 3.5ha、出荷数量 4,458千本です。
- 一部では環境モニタリングシステムの導入などデジタル化技術が導入されています。
- 栽培面積は、輸入量の増加、燃油価格の高騰、高齢化により面積の減少が続いていましたが、ここ近年は安定して推移しています。
- 品種数が非常に多く、市場ニーズに応じて多品種少量生産が中心となっています。
- 県オリジナル品種の「ミニティアラ」シリーズは、従来にはない花型が市場などから高い評価を受けており、年間を通じて流通するように北海道等とリレー栽培を行っています。

#### (課題)

- 地球温暖化に伴う気候変動により、品質低下や生産性の低下が見られており、暑熱対策などの気候変動に対応した栽培技術の確立が必要です。
- 輸入品が全体の流通量の67%を占めており、生産物の価格安定対策が急務となっています。
- 燃料費等の高騰により経営コストが増加しており、低コスト化・省力化が求められています。
- ライフスタイルの変化による新たな需要に対応する栽培方法や規格が必要となっています。

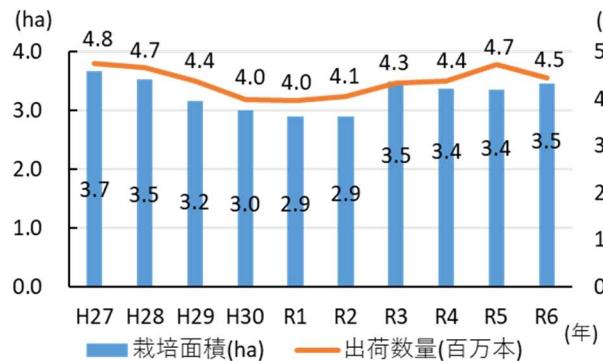


図 26 カーネーションの栽培面積と出荷量の推移

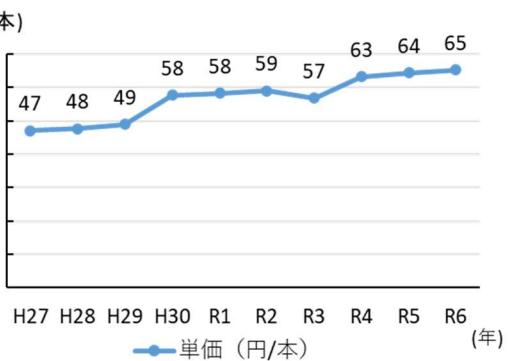


図 27 カーネーションの平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図 26、27)

### 【対策】

#### (生産対策)

- 暑熱対策などの気候変動に対応した栽培技術の確立と普及を進め、年内出荷の高品質・安定生産を図ります。
- 施設セーフティネットへの加入の促進や、省エネ対策を推進します。
- ICT技術を活用した環境モニタリングや統合環境制御システムの導入による高品質・安定生産を図ります。
- 輸入品と競合しないオリジナル品種のバリエーションを増やし、経営安定を図ります。

#### (流通・販売対策)

- バレンタイン、ホワイトデー等の新たな物日の需要拡大に向けてPR活動を行います。
- 市場・小売と連携し、情報の交換を密にして安定した販売単価の維持を推進するとともに、ホームユース需要に対応した品種や出荷形態を検討します。
- リレー産地と連携し、「ミニティアラ」シリーズのブランドのシェア拡大を図ります。

## 5 ラナンキュラス

### 【現状と課題】

#### (現状)

- 令和6年の栽培面積は2.8ha、出荷数量は2,015千本となっています。令和5年の出荷数量は全国2位となっています。
- 平成15年頃までは、県内的一部地域での生産に限られ、病害虫の発生等もあり、面積・出荷本数ともに伸び悩んでいましたが、優良種苗の供給事業が開始され、県オリジナル品種の導入もあり、県内全域に栽培が拡大するとともに、出荷本数も増加しています。
- 施設下で栽培され、病害虫対策のための防虫網は、ほぼ全てのほ場で整備されています。
- 縦箱出荷の統一や日持ち性向上技術の活用により、品質への市場評価も高まっています。
- 共同出荷が行われているほか、一部個別出荷が行われています。

#### (課題)

- 実需者のニーズに応じた、品種展開が求められています。
- ほ場ごとに反収のばらつきが見られ、その対策が求められています。
- 定植時の高温により開花期の遅延が見られ、収量が不安定となっています。

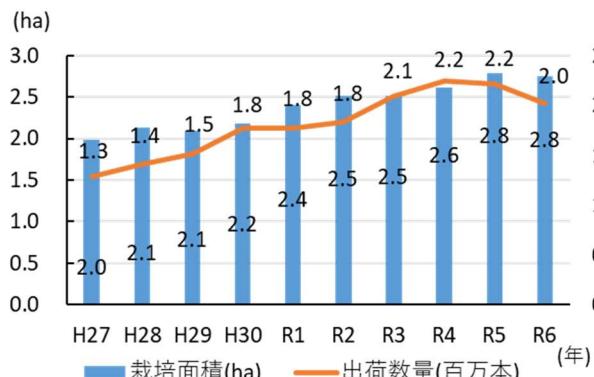


図28 ラナンキュラスの栽培面積と出荷量の推移

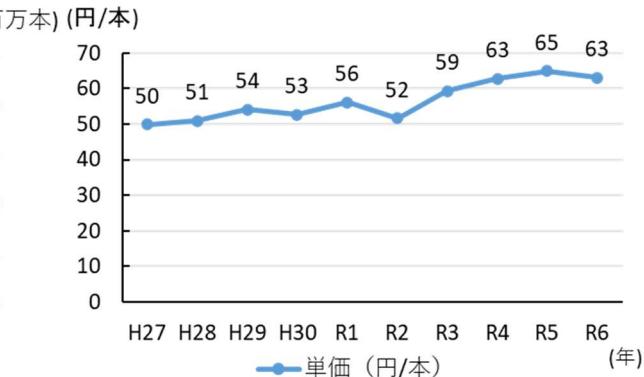


図29 ラナンキュラスの平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図28、29)

### 【対策】

#### (生産対策)

- 全国トップ産地を目指した生産拡大と高品質な切花生産を推進します。
- 生産者の希望に応えられる、優良種苗の安定的な供給体制を強化します。
- 実需者のニーズに対応するとともに、高温耐性品種の育成を図ります。
- オリジナル品種の花色を中心としたバリエーションの拡大と栽培技術の開発により、市場での差別化と生産性の向上を図ります。
- 新規栽培者の早期の経営安定化のため、重点的な栽培指導を行い、品種に応じた栽培管理の確立を図るとともに、作業性の向上やコスト削減を図ります。
- 栽培面積の拡大を図るため、低コスト化や作業効率の向上技術の検討を行います。

#### (流通・販売対策)

- 市場・小売と連携し、オリジナル品種「てまり」シリーズの積極的な広報を行います。
- バレンタインデー等のイベントでの消費拡大PRや花育活動を通じ、若い世代の消費拡大を目指します。
- 市場データを把握し、多品種・小ロットが中心のラナンキュラスの市場流通の中で、「品質が良く一定のロットが安定的に確保できる産地」としての立ち位置を確立し、用途の拡大を図ります。

## 6 鉢物

### 【現状と課題】

#### (現状)

- 令和6年の鉢物の作付面積は10ha、出荷数量は1,349千鉢となっています。
- 燃料費や資材費の高騰により栽培者数は減少し、これに伴い作付面積や出荷数量も減少傾向にあります。
- 実需者ニーズの多様化が進み、多品目少量生産や小鉢生産が求められています。また、生産者が育成したオリジナル新品種を中心に、それぞれの個性を生かした商品作りが行われています。
- 運輸業界の人手不足等により、流通状況がひっ迫しており、輸送費についても上昇傾向にあります。

#### (課題)

- 燃油や生産資材価格の高騰により、生産コストが増大しており、コスト削減技術の導入が必要です。また、生産資材については持続可能性の視点から、リサイクル可能な資材に取り組むことが求められています。
- 生産が多品目にわたるため、個々の生産に応じた細かな技術対策が必要です。
- 輸送の効率化や輸送資材の共通化、複数使用などによる流通状況の改善や輸送費の削減が求められています。
- ライフスタイルの変化や、ホームユースに対応した商品の開発が求められています。

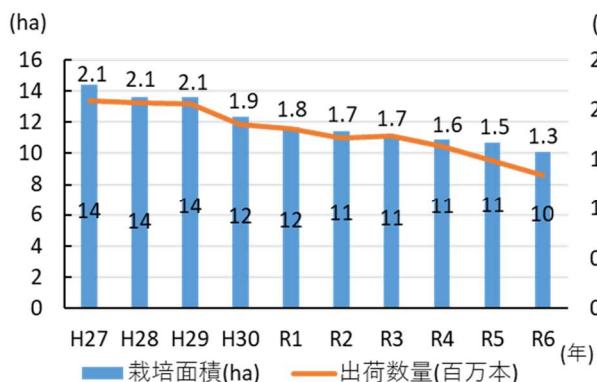


図 30 鉢物(盆栽以外)の栽培面積と出荷量の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」(図 30、31)

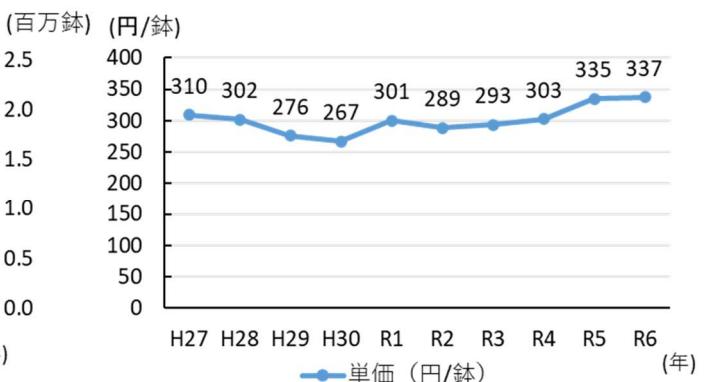


図 31 鉢物(盆栽以外)の平均単価の推移

### 【対策】

#### (生産対策)

- 省エネ対策の推進や、生産資材の共通化、出荷作業の効率化などによりコスト削減を進めます。
- 鉢素材や鉢土の素材にリサイクル可能な資材の導入を進め、持続可能な農業の推進に役立てます。
- 消費者ニーズに応じた、新規品目の探索を検討します。

#### (流通・販売対策)

- 市場や運送業者と連携し、ICT技術を活用したデータの共有化を図ることにより、出荷・輸送体系の効率化を図ります。

## 7 盆栽

### 【現状と課題】

#### (現状)

- 令和6年の栽培面積は11.2ha、出荷数量は60千本となっています。令和5年の出荷数量は全国3位、マツ盆栽では1位となっています。
- 主な栽培種は黒松が最も多く、次に五葉松、錦松等が生産されており、その他真柏や実物盆栽等が生産されています。
- 流通については、各産地単位に競り市が開催され、県内外の仲買人などに販売されています。以前は大型～中型の商品の取引が多かったのですが、住宅事情の変化や、景気の低迷により、小ぶりな商品の取引が多くなっています。
- 輸出については平成元年ごろから取り組まれており、台湾やEUをはじめ、世界各国へ出荷されていますが、検疫条件が各国で異なるため、国に応じた対応が必要となっています。
- 令和元年に「高松盆栽の郷」がオープンし、盆栽の販売やイベントなどが実施されています。

#### (課題)

- 国内については、住宅事情の変化などにより大型のものから小型のものにニーズが変化しており、ライフスタイルの変化に対応した商品の開発が望まれています。
- 生産者の高齢化や、後継者の不在により産地の維持や技術継承が難しくなっており、苗木づくりに必要な施設の整備や、技術継承への支援が求められています。
- ICT技術を活用した商談活動や、物流状況の改善を加速させる必要があります。
- 「高松盆栽の郷」を核として、地域の産業化に取り組んでいく必要があります。

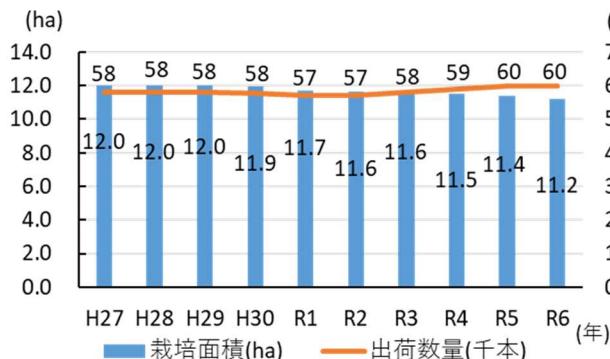


図32 盆栽の栽培面積と出荷量の推移

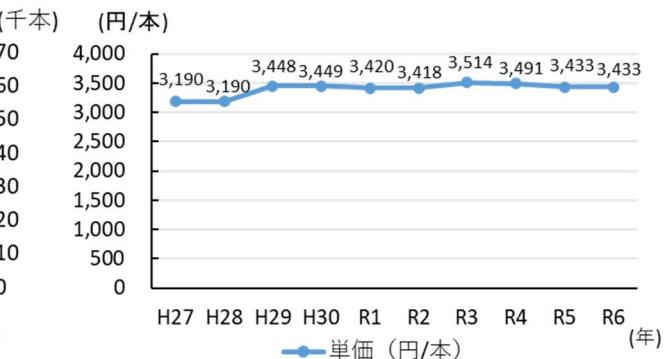


図33 盆栽の平均単価の推移

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」（図32、33）

### 【対策】

#### (生産対策)

- 盆栽の研修制度を充実し、次代の担い手育成や、輸出後の管理技術の向上を進めます。
- スマート技術を活用し、栽培技術の「見える化」を進め、技術継承の促進に努めます。
- 消費者ニーズに応じた商品の開発と栽培技術の確立を図ります。
- 相手国の検疫条件に対応した病害虫防除技術の確立と普及に取り組みます。

#### (流通・販売対策)

- 特に若年層に向けて、盆栽を気軽に取り組むことができる環境づくりを進めます。
- ICT技術を活用し、輸出のための商談等を支援するほか、物流状況の改善を支援します。
- 地域資源としての「盆栽」を中心とした産業化を推進します。





<さぬき讃フラワー>

香川県で生産された花きを多くの方に知ってもらいたい、利用してもらいたいという思いから、県産花きをPRする独自のロゴマーク「さぬき讃フラワー」を作成しました。

香川県の形に花の形を重ね合わせたデザインで、視覚的に地域性を表現しています。カラフルな配色は、様々な花が、香川県で心を込めて生産されていることを意味します。